

企業短期経済観測調査（道北\*地域分）  
（調査対象企業：道北\*48社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

〔 回答社数構成比%ポイント  
（ ）内は前回調査時予測 〕

（判断D. I.）

	2010/12月	2011/3月	6月	9月	12月	2012/3月	2012/6月までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	▲29	▲34	▲33	▲46	▲34	( ▲34) ▲29	▲32
うち製造業	▲30	▲20	10	0	0	( ▲10) ▲20	▲20
非製造業	▲29	▲38	▲43	▲58	▲42	( ▲39) ▲32	▲34
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲43	▲45	▲33	▲48	▲32	( ▲34) ▲29	▲32
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	0	3	5	11	6	( - ) 9	-
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	▲2	19	4	6	5	( 13) 7	5
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	2	23	7	5	9	( 17) 6	2
資金繰り < 楽である - 苦しい >	▲12	▲21	▲29	▲32	▲32	( - ) ▲26	-
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	▲6	▲4	▲9	▲7	▲5	( - ) ▲7	-
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲13	▲2	▲3	▲8	▲13	( 0) ▲9	▲2
販売価格 < 上昇 - 下落 >	▲34	▲33	▲25	▲27	▲29	( ▲29) ▲29	▲29
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	12	25	27	21	21	( 29) 27	27

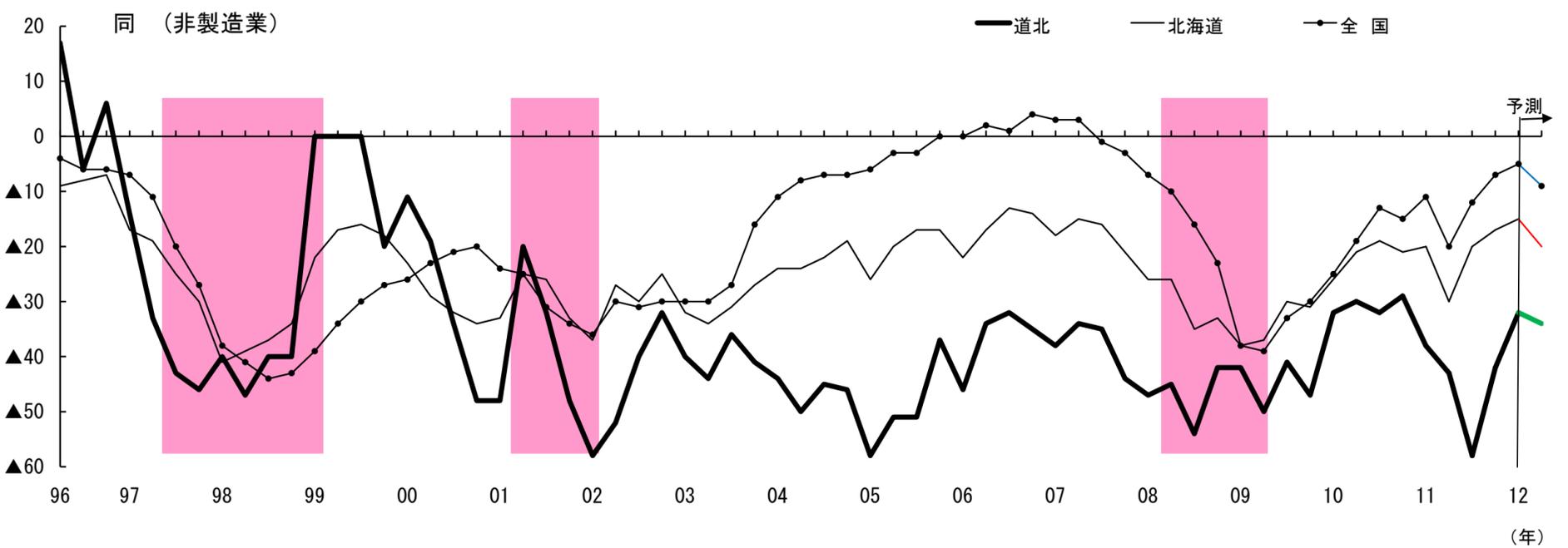
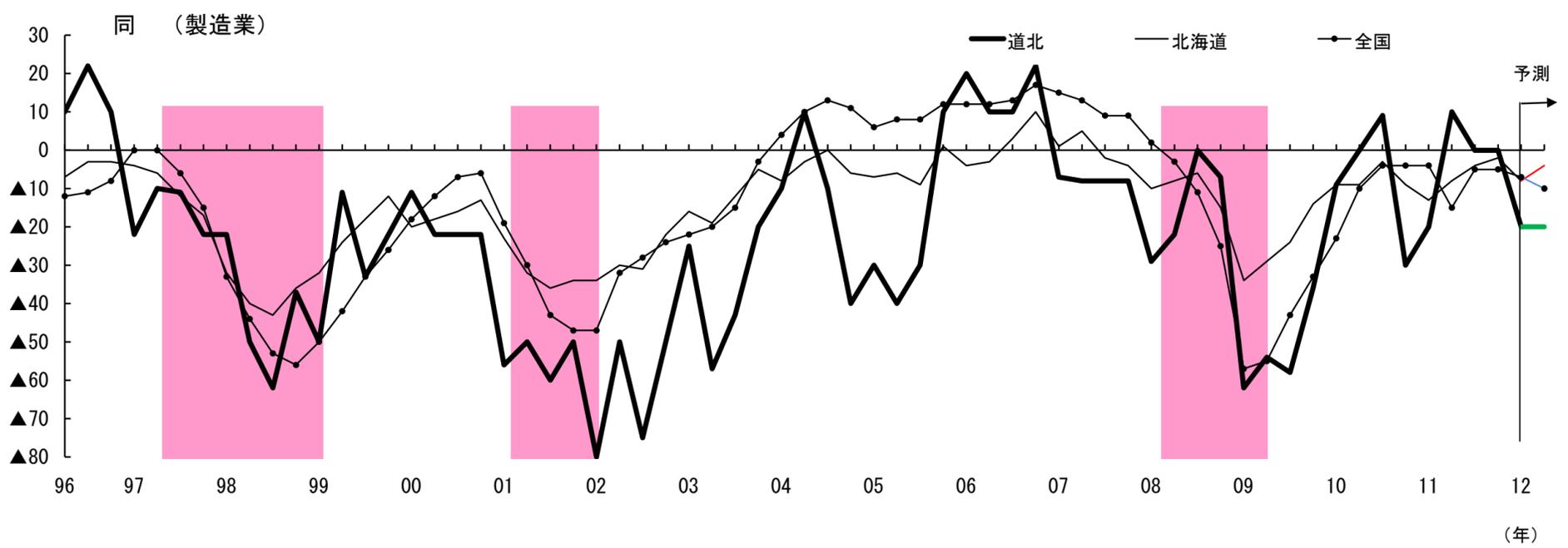
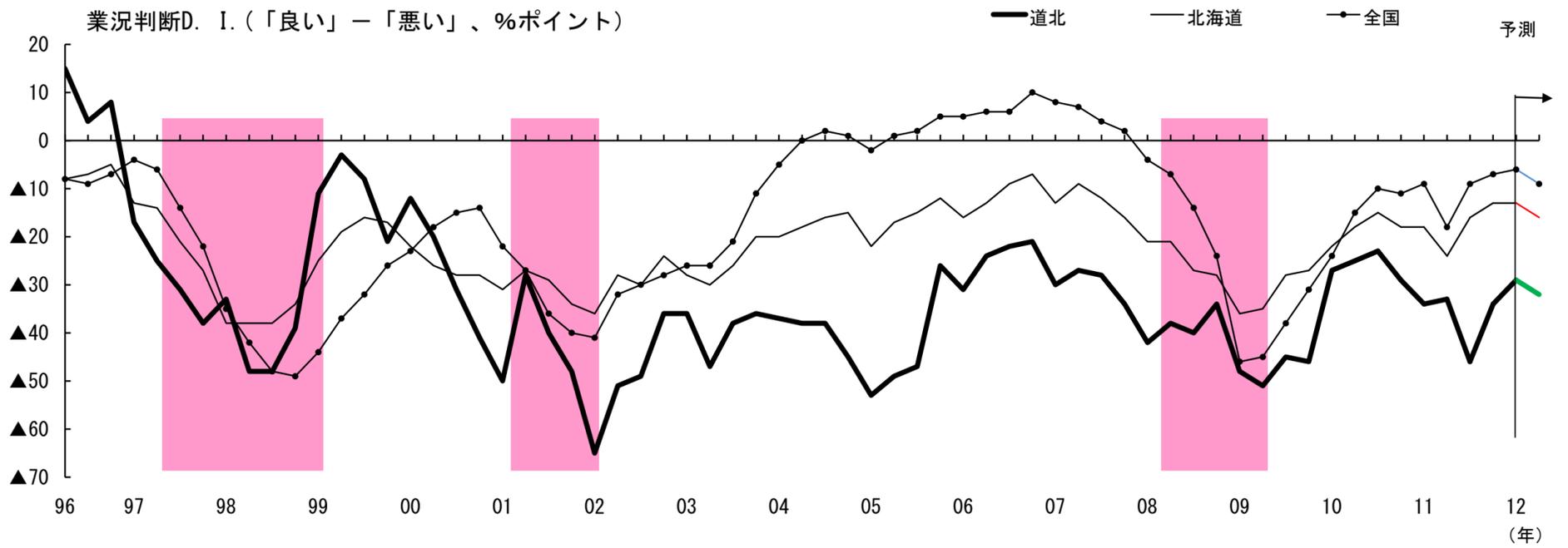
（注）「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2012/6月までの予測」は調査対象外。

〔 全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率% 〕

（事業計画）

	2011年度実績見込				2012年度計画		
		上期	下期		上期	下期	
売上高	+0.5 < +0.9 >	+0.9 < +0.4 >	+0.1 < +1.4 >	▲2.3	▲3.9	▲0.8	
経常利益	+4.8 < -11.2 >	▲7.9 < +1.1 >	+66.7 < -33.2 >	+11.5	▲9.3	+68.0	
当期純利益	▲41.7 < -31.2 >	▲36.6 < +2.5 >	赤字転化 < 赤字転化 >	+75.7	+12.2	黒字転化	
設備投資額	▲8.0 < +3.5 >	▲5.8 < +18.5 >	▲10.4 < -9.7 >	+4.3	+42.3	▲39.6	

2012年3月短観・調査結果



(注) 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
 2009/9月以前は調査対象企業等見直し前の旧ベース、2009/12月以降は見直し後の新ベース。  
 シャドーは景気後退期（内閣府調べ）

## 2012年3月短観のポイント

- 回答期間：2012年2月23日～3月30日。
- 道北地域 48社が対象（有効回答社数48社）。

### （判断D. I.）

- 業況判断D. I. は▲29%ポイントと前回（12月）調査（▲34%ポイント）比5%ポイントの改善。製造業は悪化した一方、非製造業は、運輸・通信、宿泊・飲食サービスで改善。春節をきっかけとした台湾等インバウンド観光客が増加したこと、厳冬に伴う除雪作業が増加したこと、等が寄与。
- 製造業では▲20%ポイントと12月調査（0%ポイント）比悪化。また、非製造業では▲32%ポイントと10%ポイントの改善。
- 悪化した先の背景としては、「取引先の生産調整等の影響」（電気機械）、「受注の減少または工事単価の下落」（建設）など。改善した先の背景としては、「たまたま予想以上の受注獲得」（建設）、「除雪関係の仕事が増加」（運輸・郵便）、「春節をきっかけとした台湾等インバウンド観光客の増加」（宿泊・飲食サービス）、「震災後積み上がっていた在庫処理の完了」（卸売・小売）など。
- 全国をみると、大企業製造業では▲4%ポイントと前回調査比変わらず。自動車、電気機械が改善した一方、素材関連業種（非鉄金属、化学）では悪化。一方、大企業非製造業は1%ポイント改善し、5%ポイント。卸売、運輸、宿泊・飲食サービスは悪化したものの、通信、情報サービス、対事業所サービス等では改善した。大企業全産業では、0%ポイントと前回調査比変わらず。全国全規模合計製造業では▲7%ポイントと前回調査比2%ポイントの悪化。全国全規模合計非製造業では▲5%ポイントと2%ポイントの改善。全国全規模合計全産業では、▲6%ポイントと1%ポイントの改善。
- 全道をみると、全産業では▲13%ポイントと前回調査比変わらず。製造業では6%ポイント悪化し▲8%ポイントとなった一方、非製造業は2%ポイント改善し▲15%ポイントとなった。
- 道北地域における3月の業況判断D. I.（▲29%ポイント）は、前回調査における3月までの予測（▲34%ポイント）との対比で改善。先行き6月までの見通しは▲32%ポイントと3%ポイントの悪化。業種別では製造業（▲20%ポイント→▲20%ポイント）が横這いとなる一方、非製造業（▲32%ポイント→▲34%ポイント）は若干の悪化を見込んでいる。先行き悪化先のコメントとしては、「原油高の影響による資材価格の上昇懸念」（建設）、「公共工事の減少」（建設）など。先行き好転先の主なコメントとしては、「取引先の投資増」（卸売）、「震災で執行が遅れていた案件の再開」（その他情報通信）など。
- 需給環境は、改善。先行きはやや悪化を見込んでいる。

- 在庫水準は、過剰超幅がやや増加。
- 生産・営業用設備は、過剰超幅がやや拡大。先行きはやや縮小を見込んでいる。
- 雇用人員は、過剰超幅がやや縮小。先行きは更に縮小を見込んでいる。
- 資金繰りは、苦しい超幅が縮小。一方、金融機関の貸出態度は、厳しい超幅がやや拡大。この間、借入金利水準は低下超幅が縮小。先行きも更に縮小を見込んでいる。
- 仕入価格は、上昇超幅が拡大。先行きは横這いを見込んでいる。一方、販売価格は横這い。先行きも横這いを見込んでいる。

#### **(事業計画)**

- 2011年度の売上高は、前回調査比若干上方修正(+0.9%)され、前年度比+0.5%と若干増収となる見込み。タイの洪水(電気機械)や本部への生産移管の影響(電気機械)から下方修正となった先がみられた一方、震災特需剥落後の市況下落や震災後の公共工事の受注減少を保守的に厳しく見込んでいたが、実際はさほどでもなかったこと(建設、木材・木製品)などから、上方修正となった先がみられた。
- 2011年度の経常利益は、電気機械におけるタイ洪水の影響や本部への生産移管の影響を主因に前回調査比11.2%下方修正され、+4.8%の増益を見込んでいる。当期純利益も31.2%下方修正され、▲41.7%の減益を見込んでいる。
- 2011年度の設備投資額は、前回調査比若干(+3.5%)上方修正され、▲8.0%の減少を見込んでいる。電気機械で本部への生産移管の影響から設備投資を取りやめる先がみられた一方、飲食・宿泊サービスで来期に備えてリニューアルを行う先がみられた。

以 上